

平成 26 年 7 月 21 日

「海の日」を迎えて

一般社団法人日本船主協会
会 長 朝倉 次郎

平成 26 年の「海の日」を迎えるにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

国民の祝日「海の日」は、海事産業を中心とした祝日化運動の大きな盛り上がりにより、平成 8 年 7 月 20 日に祝日化されました。民間運動から実現した初めての祝日であるとともに、世界的にも海にまつわる日を祝日化したのは日本が初めてです。これはわが国が四面を海に囲まれた海洋立国ならではのことであります。

資源に乏しいわが国では貿易物資の実に 99.7%が船によって輸送されており、国内にはこれを担う多くの海運企業とともに、世界トップレベルの技術力を誇る造船業・船用工業など海運に係る様々な業界も裾野広く存在し、相互に深く連関しながら、最先端の海洋環境技術開発などの成長分野も支えています。

船主協会は、これら多くの海事産業の中核たる海運企業が、今後も安定的且つ良質な輸送サービスを提供し国民生活の向上と経済の発展に寄与し続けることが出来るよう、国際競争条件の均衡化、安全運航や海賊対策、環境保全、海事人材の確保育成、内航海運の経営環境整備などの重要課題に全力で取り組んでおります。

さて、「海の日」は海運の役割と重要性の理解を深める絶好の機会です。この日を迎えるにあたり、今年も各地でイ

ベントが開催されます。船主協会も海に関する国内最大級のイベントである「海フェスタ京都」へ出展するとともに “暮らしを支える日本の海運“というテーマで新たな撮影で構成した DVD を 広く一般に配布いたします。この DVD の中では、もし船による輸送が止まったらコンビニの店舗に並ぶ多くの品々のほとんどが消えてしまうといった映像も交えながら、日頃見る機会の少ない船が日々の暮らしに欠かせないものであることを起点として、海運の世界をわかりやすく紹介しております。これを機に海と海運の大切な役割が、国民の皆さまに一層深く意識されるよう願っております。また、このように海事関係団体が一体となってより効果的な広報活動を推進していくことが、海事産業全体の人材確保や税制をはじめとした政策課題の実現への環境整備にも結びつくものと考えております。

なお、平成 15 年より「海の日」は当初の 7 月 20 日から、ハッピーマンデーに変更されましたが、「海の日」の意義を国民の皆様に広く共有していただくためには、本来の 7 月 20 日に固定することが海洋立国たるわが国にとって相応しいものと考えます。

海の恩恵を受けるわが国の海上貿易を担う海運事業者として、「海の日」の意義に思いを寄せつつ、あらためて皆さまと共に海洋国家日本の繁栄を心より祈念いたします。

以上